



久保泉だより

佐賀市立久保泉小学校

学校だより 第15号

令和7年 7月18日

文責：校長 中村 佳代

一学期終業式・いよいよ夏休み!!

今年は例年より早い梅雨明けで、7月はかなりの暑さが続いておりました。御家族の皆様も含め、子どもたちの様子はいかがだったでしょうか。新しい学年になって4か月ほどが経ち、どの子にも、たくさんの学びがあったことだろうと思います。一学期に頑張ってきたことを継続し、夏休みにしかできないことにも挑戦して、さらに成長できる毎日をつくってほしいですね。規則正しい生活を送り、元気に、楽しく過ごしてほしいと思っています。保護者の皆様や地域の皆様には、様々な学校行事等においても、御理解と御協力をいただき、ありがとうございました。

二学期の始業式は、8月29日（金）となります。全校3時間授業です。11：30頃の下校を予定しています。給食はありません。よろしくお願いいたします。

*** 夏季休業中の主な行事 ***

夏季休業中の主な行事について、お知らせします。

- 個人面談 7月24・25・28日（木・金・月）
※予備日 7月29日（火） いずれも13：30～の予定

※ 詳細については、各学級からのお知らせにて、御確認ください。

- 雄飛学園資源物回収 8月 2日（土） 8：00～9：00 金泉中学校
○ 夏祭り（町の行事です） 8月 2日（土） 15：00～
○ 学校完全休業日 8月13・14・15日（水・木・金）

【佐賀市代表電話】
0952-24-3151

※ 学校は開きません。緊急の場合は、佐賀市教育委員会へ御連絡ください。

- ◎ 親子ふれあい除草作業 実施しません。

*** 入賞 おめでとうございます!! ***

1年生の子どもたちが、図画工作の学習で、「河川愛護」のポスターを描きました。それぞれの思いが、豊かに表現された作品に仕上がりました。二人の入選です。おめでとうございます!!

《 河川愛護ポスター 》
入選 1年 大坪 拓真
1年 山口 湊音

*** 「多読賞」たくさん読みました!! ***

一学期、貸し出し冊数が一番多かった学年は、1年生で「1694冊」でした。一人の平均は、「89.2冊」です。様々な本にふれて、知識も豊富に、心も豊かになってほしいですね。

《 一学期の「多読賞」のみなさん 》

- | | |
|-----------------|------------------|
| ① 6年 中村 花菜 139冊 | ⑥ 3年 福川 美聡 126冊 |
| ② 6年 大坪 志織 134冊 | ⑦ 5年 原田 藍乃丞 125冊 |
| ③ 6年 池上 柑那 132冊 | ⑧ 4年 久保 穂華 116冊 |
| ④ 3年 青木 悠閑 130冊 | ⑨ 5年 田中 裕人 115冊 |
| ⑤ 4年 梅崎 心琴 128冊 | ⑩ 1年 川副 杏葉 113冊 |

「漢字前倒し学習」と「百ます計算」

「学力の向上」に向けた、子どもたちの「学びの土台づくり」の一つとして、今年度は、年度当初から、全校で「漢字前倒し学習」と「百ます計算」に取り組んできています。昨年度から取り組み始めましたが、今年度は、全体で足並みを揃えて取り組んでいます。漢字にしても計算にしても、得手・不得手はあるでしょうが、徹底して繰り返して積み重ね、継続することで、確実に成果が表れます。間違いなく、一人一人の伸びや自信につながります。新しく取り組むことに対してはデメリットを探しがちですが、学校全体で共通して取り組むことのメリットは、とても大きいと考えています。

「漢字前倒し学習」

当該学年で学習する漢字は、80～202字です。6年間では、合計1026字を学習します。当然、4月の初めに学習する漢字もあれば、3月に入ってから学習する漢字もあるわけです。通常であれば、その単元の学習の初めに新出漢字として学習するのですが、それでは、最初に学習した漢字は1年間使い続けるけれども、最後に学習する漢字はわずかな期間しか使わない、という状況が生まれます。「漢字前倒し学習」では、1年間に学習する漢字を、年度初めの2～3か月ほど（今年度は、目標を6月末まで、としました。）で、一とおり学習してしまうのです。「①知っている漢字⇒②読める漢字⇒③書ける漢字⇒④使える漢字⇒⑤いつでも使いこなせる漢字」にしていくイメージです。3学年が6月末までに、2学年が7月に入って、終了しています。どの学年も「③のとりあえず書ける」段階までできています。（1年生は、平仮名が「読める」「書ける」段階です!!）一学期の今の段階では、習熟に十分な時間を取ることはできていませんので、例えば、「まとめのテスト」ではあまり点数が取れなかった、ということもあるかもしれません。ですが、この後の二学期・三学期の伸びはとても大きいと考えています。早い段階で、「すべて読める。とりあえず書ける。」状態になっていますので、音読が負担になりません（どの教材でも音読が可能です。）し、その学年で学習する漢字を、どの教科等の学習でも1年間使い続けることができるようになります。その都度確認することができますし、繰り返し学習する場面が多くなります。子どもたちは、自分の実力に応じて、反復学習を行うことができます。すべての漢字を学習しておく、様々な形で習熟や定着を図ることに力を注ぐことができるようになります。

「百ます計算」

各学年の学習内容と実態に応じて、「たし算・ひき算・かけ算・わり算」の四則計算に取り組ませています。1種類の計算を百問、2分間で取り組みます。目的は、「正確に・速く」解くことです。どんな数字の組み合わせがきても、確実に解くことができるようになることです。百問すべてを解くことをねらっているわけではありません。考え方はできている、立式もできている、なのに、計算で時間が掛かってしまったり、間違ったりするのであれば、とてももったいないことだと思います。これまでの学習では、計算でつまずき、本来の学習の目標ではないところで時間を費やしてしまう様子も見られていました。おそらく、この後は、どの子も解くことができる題数が大幅に増え、正答数（率）やタイムも確実に伸びていくはずです。百問1分を切る子が出てきます。

「漢字」も「計算」も、「のびるタイム（スキルタイム）」の時間と国語・算数の初めの「ミニスキルタイム（5分弱）」の時間に、継続して取り組んできています。この夏休みの宿題にも取り入れていますので、子どもたちの学校での取組の様子を、御家庭でも御覧ください。



今年度の「のびるタイム」を始めるにあたっては、先進的に取組を継続されている、千代田西部小学校の梅崎先生に講師としておいいただき、教職員の研修も実施して、実際の活動を体験しました。子どもたちはとても集中して頑張っています。取組の様子については、また、改めて紹介いたします。